



入団を報告する小木田投手（右）。
左はTDK硬式野球部の佐藤監督。

オリックス・バファローズ ドラフト7位 小木田敦也投手が抱負語る

10月11日に行われたプロ野球ドラフト会議で、オリックス・バファローズから7位で指名を受けた小木田敦也投手（角館高校卒・TDK（にかほ市））が、12月27日、市役所田沢湖庁舎を訪れ、田口市長に抱負を語りました。

角館町八割出身、23歳の小木田投手は、角館小学校3年生から野球を始め、角館中学校でも野球部に所属。角館高校では、平成26年に1年生ながらサードで甲子園に出場。直後の秋からエースナンバーを背負い、チームの大黒柱として3年時には夏の全国高等学校野球選手権秋田大会で準優勝に輝きました。

卒業後は社会人野球のTDK硬式野球部に所属し、直球を武器に令和2年には7年ぶりの都市対抗野球大会の出場に貢献。昨年の同大会でも2回戦で敗れたものの初戦で先発を果たしています。

TDKの佐藤康典監督は「昨年、一昨年と指名漏れが続く、今年は彼をプロに送

りたいという気持ちでやってきた。5年間TDK野球部で共に戦ってきた仲間がオリックスの指名を受けた時は、すごく嬉しかった。7位という指名だが、オリックスの期待は順位以上のものがある。彼を応援してほしい」と話しました。

小木田投手は「TDK野球部で活動してきた5年間は、決して順風満帆なものではなかったが、この2年間はチームも強くなり、エースとして都市対抗野球大会に出場することができた。TDKの5年間で学んだことを忘れず、開幕1軍と先発ローテーション入りを目標にオリックスで活躍できるように頑張りたい」と抱負を語りました。

1月9日からは新人合同自主トレーニングが始まり、プロ野球選手として第一歩を踏み出した小木田投手。1軍のマウンドでさらに磨きのかかった直球で三振を奪い、躍動する姿を私たちにきつと見せてくれるはずです。小木田投手の活躍が期待されます。

小木田投手へ 一問一答



- Q 先発ローテーション入りか目標という
ことだが、先発へのこだわりは？
A 真っ新なマウンドに立つて試合を
することがポジションなのでプロの
舞台で先発したいという気持ちはある。
チームの目標に向けてどのように貢献
していきたいか？
A 先発としても継ぎとしても任された
ポジションをしっかり全うして一つ
でも多くの勝利に貢献したい。
- Q 自分のどのような所を武器に戦ってい
きたいか？
A 強みはストレートだと思っている。ス
トレートでカウントを作った三振を取
りたいときに取れるようにこれからも
磨いていきたい。
- Q 新人合同自主トレまでの間、重点的に
鍛えていきたいポイントは？
A 1年を通して体を壊さないように体幹
トレーニングやウエイトトレーニング
を積んで臨みたい。
- Q どんな投手になりたいか？
A 周りから頼られる投手になりたい。
- Q 目標とする選手はいるか？
A 特にはいないが、体格が似ているオリ
ックスの山岡投手のピッチングは参考
にしている。
- Q 仙北市のどのような部分が今の自分
につながっていると思うか？
A 小さい時から野球をする環境が整っ
ていた。今まで指導してくださった監督
やコーチのおかげで今の自分がある
と思っている。
- Q 野球に励んでいる子どもたちにメッ
セージを。
A 夢や目標を持って、それに向けて頑張
ってほしい。

フナ わが校の自慢 ～角館小学校編～



春夏秋冬、様々な姿を見せてくれます。

角館小学校の自慢は、教室から見
える校の風景です。
大原愛莉さん（6年）は「すばら
しい桜を観光客にもアピールした
い。角館に生まれてよかった」、菊地
蓮さん（6年）は、「すばらしい桜に
負けないように、自分も成長したい
と話しました」。

仙北市プライドを育てる、角館小学
校から見える校の風景。すごいです。

このほど、白岩小学校1年生で佐
藤知栄美先生の「生活科」の研究授
業が行われました。
仙北市では幼保小連携に力を入れ
ていきますので、市内の保育園、認定
こども園の先生方も参加しての研究
会となりました。

白岩小学校 こども園、保育園との連携



子どもが主役のすばらしい授業でした。

昨年度、園で子どもたちを担当さ
れた高橋夏子先生は、「友だちのお
話を最後まで聞くこととする意識が
しっかりと見えた。友だちのよさを
認める雰囲気も引き継がれていた。
子どもたちの成長が何よりもうれ
しい」と目を細くしました。

佐藤玲さんは、「どんぐりを使っ
て園でも遊んだことがあった。どん
ぐりをプリンに見立て、お店を開き、
とてもうまくできた。そこを夏子先
生に見てもらえてよかった」と話し
ました。

切れ目のない教育の効果の大きさ
を再確認した研究会でした。

ICTが開く未来の学校

仙北市内の小・中学生には
1人1台のクロームブックが
配布され、様々な試みが行わ
れています。そんな取組の中
から二つを紹介しします。ICT
技術が学校を変えるのもそ
んな遠い未来ではないかもし
れません。

①クロームブックで交流学習
「MEET」というオンライ
ン会議ができるアプリを使い、
松木内小学校と西明寺小学校
が、自校の委員会活動を紹介
し合いました。西明寺小学校
の本元穂香さん（6年）は、「松
木では本を広める活動があっ



マーボー丼を完食する田口恭湖さん（5年）。

最近テレビで様々な総選挙
が行われています。アイドル
から冷凍食品まで多様多彩
です。そこで今回は生保内小
学校に伺い、4年生から6年
生に自分の好きな給食のメ
ニューを投票してもらいまし
た。その結果は、
1位 マーボー丼
2位 チキンカレー
3位 しょうゆラーメン
となりました。

マーボー丼に1票を投じ
た進藤美朱さん（5年）は、
「ちよっぴり辛い、うまみ

が口に心地よく残る。豆腐の
やわらかさとトロミの食感が
絶妙」と話しました。

「子どもの表現力を鍛える
ためには、五感を磨くことが
大切」という話を聞いたこと
があります。味覚という感覚
を通して子どもたちの表現能
力が高まって
いるなと感じ
ました。

これからも
おいしい給食
よろしくお願
いします!!

マーボー丼は仙
北市でしか食べ
られません。



離れていても、つながっているという
実感があります。

ようこそおかえりふるさと田沢湖

クニマス4尾が到着



田沢湖クニマス未来館は、冬季も開館しています。ぜひご覧ください。

昨年、山梨県から秋田県に貸与いただくことが決まっていたクニマス30尾。9月30日に到着した10尾に続き、12月22日に残り20尾が田沢湖クニマス未来館に到着しました。20尾のうち4尾は田沢湖クニマス未来館に展示され、16尾は北秋田市の秋田県水産振興センター内水面試験池で飼育されます。

た、「SDGsや環境などが世界的に注目されているがクニマスはまさにそれを教えてくれるものなのではないか」と期待を寄せました。田口市長は「クニマスは失ってしまった自然、取り戻すことの大変さを教えてくれる特別な魚。特にこれからの時代を担う子どもたちに、これまでの歴史から自然環境を守る大切さを学んでほしい」と話しました。今回展示された4尾は令和2年生まれの1歳魚。体長は15センチほど、重さ20〜30グラムの小さなクニマスたちを小水槽に移すと、元気に泳ぎだしました。隣の水槽には4歳魚が展示されており、年齢によって体の大きさ、形、色の違いを感じることが出来ます。この機会にぜひご来館いただき、見比べてみてください。

開館時間は、9時〜16時。火曜日は定休日。

地域に元気を！子どもたちに笑顔を！！

神代こども園 イルミネーション



雪だるまやクリスマスツリーが浮かび上がり気分もほっこりです。

11月中旬より神代こども園はきれいなイルミネーションで彩られています。これは神代地区の方が集まって発足した「神友会（大石良幸会長）を先頭に、こども園の保護者をあわせておよそ20人で設置。新型コロナウイルス感染症の影響で外に出る機会が減った子どもたちや地域の方に元気を届けるために実施されました。イルミネーションの設置は10年ほど前から行っていました。今年も雪だるまやクリスマスツリーなど色合いだけでなく、デザインにもこだわったとのこと。

「神代こども園周辺では街灯も少なく、新型コロナウイルス感染症によってさらに暗い気持ちになってしまふ。少しでも周りに明るい雰囲気を出して元気になるきっかけ」と思いを話す大石会長。「イルミネーションを見て喜んでくれる声をいただいている。これからも少しずつ規模を拡大していきたい、地域のためにできることをしていきたい」と話しました。

点灯期間は未定で風が強く除雪の妨げになったら外すとのこと。時間は16時〜21時までです。

交通安全協会西明寺支部

交通安全を呼びかける

12月14日、仙北市交通安全協会西明寺支部の皆さんがローソン西木西明寺店の駐車場で交通安全を呼びかけました。

この時期は、暗くなるのが早くなり、飲酒の機会が増える年末年始も控えています。高齢者の夜間の事故防止と飲酒運転の防止のため、支部員は訪れる利用客に丁寧に説明しながらチラシと反射材を手渡しました。

同支部の小林誠支部長は「すでに暗くなっているにもかかわらず高齢者が外に出ているのを見かけると危ないなと感じる。コンビニに立ち寄る若い人から伝えてもらって、少しでも気をつけてもらいたい」と話しました。



夜間は歩行者が見えにくいことから、運転は特に気をつけましょう。

子どもたちのために

田沢湖図書館に 本のプレゼント



柳生さん（左）と信田館長（右）。

善意ありがとうございます

12月21日、元石手県立学校教諭で現在は石手大学教育学部附属中学校で技術家庭の非常勤講師をされている柳生達雄さん（石手県滝沢市在住）から田沢湖図書館へ本を寄贈いただきました。

柳生さんは、同館で毎月行っている「おはなし玉手箱」に集まった子どもたちに何度か身近なものを使ったおもちゃ作りを教えたり、昨年の8月には、図書館主催の工作教室で夏休

み中の小学生を対象に紙ひこうきの作り方を教えるなど、同館を通じて地域の子どもたちにも作りの楽しさを伝えてくれています。

柳生さんは今回の寄贈について「子どもたちのために何か奉仕できないかいつも思っている。本を贈ることで図書館にきた子どもたちが楽しく過ごすことができるのではと思った」と話しました。

また、子どもたちに向けて「SDGsを実践し持続可能な社会を作っていくために、ものを大事にしてほしい。自分で作ることによってものの大事さがわかってくるのももの作りにふれてもらえれば」とメッセージをいただきました。

大石豊子さん

12月16日、大石豊子さん（田沢湖卒田）が100歳の誕生日を迎えられ、グループホームたんぽぽでお祝いが行われました。当日は、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



豊子さんにお祝いが手渡されました。

(百寿)
おめでとう
ございます

畠山ユキエさん

12月20日、畠山ユキエさん（角館町西長野）が100歳の誕生日を迎えられ、さわやか桜館でお祝いが行われました。当日は家族の皆さまが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



ユキエさんにお祝いが手渡されました。

人権擁護委員が委嘱されました

1月1日付で法務大臣から次の方が委嘱されました。

伊藤政和（田沢湖神代）… 再任 ※敬称略

委員の任期は3年で、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動や、人権相談などを積極的に行っています。

秋田県国際交流協会 30 周年記念式典

30 周年
記念表彰

仙北市国際交流協会・大仙仙北地域外国籍住民等サポート事業運営委員会が受賞

多文化共生作文コンクール

菊地蓮さん（角館小 6 年）が優秀賞を受賞

11 月 14 日、秋田県国際交流協会の設立 30 周年記念式典が秋田市で行われ、国際化推進に功績があったとして、仙北市国際交流協会と大仙仙北地域外国籍住民等サ

ポート事業運営委員会が 30 周年記念表彰を受賞しました。また、多文化共生をテーマに行った作文コンクールで角館小学校 6 年の菊地蓮さんが優秀賞に輝きました。

仙北市国際交流協会

1986 年に田沢湖町国際交流促進協議会（現：仙北市国際交流協会）を設立。民間主導で国交のなかった台湾高雄市にある澄清湖と田沢湖の姉妹湖締結の調印を行い、市内の中学校、高校の姉妹校締結や温泉連携協定、高雄マラソンと田沢湖マラソンの相互交流など、台湾との交流の基礎を築いてきました。昨年は玉川温泉と台湾台北市にある北投温泉との温泉連携協定 10 周年を記念して記念碑の建立や台湾祭の開催など積極的な活動を続けています。

さらに今年には姉妹湖締結 35 周年記念の年となり、台湾とのさらなる交流が期待されます。同協会の吉田裕幸

会長は「本協会の活動は 35 年前に台湾高雄市にある澄清湖と締結してはどうかというのが始まりだった。感染症拡大前までは仙北市にも台湾のインバウンド客が増えてきていた。これからもなんらかの形で台湾との交流を継続していき、お互いが盛り上がっていければ」と話しました。



右から高橋義男副会長、吉田裕幸会長、西村隆作副会長。

大仙仙北地域外国籍住民等サポート事業運営委員会

同表彰を受けた大仙仙北地域外国籍住民等サポート事業運営委員会は、大仙市・仙北市・美郷町に在住している外国人の支援や多文化共生の推進を行う団体です。

表彰を受け同委員会の副委員長を務める仙北市教育委員会の須田教育長は「仙北市相談員の田村さんをはじめとする関係者の方々の活動が評価されたもの。この表彰を受け、さらに多文化共生推進のため、活動を行っていきたい」と話しました。

同委員会の活動の一つである相談事業。外国人の生活に

おける悩みや問題を解決するため各地区に相談員を配置し外国人の支援を行っています。

角館地区を担当する相談員の田村雄幸さんにどのような相談が寄せられるのか何うと「大きな悩みごとと相談というのは少なく、ほとんどが家族のことや普段の生活の様子などの近況報告」と話します。「外国の方にとって相談員はいざという時に助けてもらえる人ということで平時からつながっていたいかもしれない。近況報告の裏には何か悩みごとがないか引き出そうとしながら話を聞いている」と、外国人の心の支えとなっているようです。

また、3 人の相談員を含む 7 人が指導者を務める日本語教室が毎週日曜日の 10 時～12 時に角館交流センターで開催されています。日本語を勉強したいという方、悩みを相談したいという方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

角館小 6 年 菊地蓮さん

外国語が苦手だとしても、誰でもいつからでも始めることができるのだ。ほほ笑みは世界共通のコミュニケーションであるとはよくは信じている」と述べました。

「作文を通して色々な人に僕の気持ちを伝えたい。これからは自分から仙北市や秋田県をほほ笑みやアイコンタクトなどで明るくしていきたい」と話す菊地さん。ほほ笑みが地域を明るくし、まちを元気にする日が来るといいですね。



優秀賞を受賞した菊地蓮さん。

令和 3 年度地方教育行政功労者表彰

安部哲男さん・熊谷徹さんが受賞

12 月 16 日、「令和 3 年度地方教育行政功労者表彰」において文部科学大臣より前仙北市教育委員会教育委員長の安部哲男さんと前仙北市教育委員会教育長の熊谷徹さんが受賞し、田沢湖庁舎へ報告に訪れました。

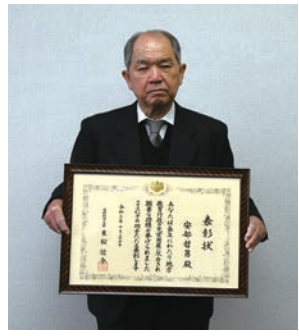
同表彰は、教育委員会の委員長・委員・教育長について、地方教育行政において功労のあった方を表彰するもので、秋田県で 5 人が受賞しました。

安部さんは教育委員として平成 20 年から令和 2 年まで 12 年（うち委員長として 4 年 4 か月）在職。その間、学校教育の充実、社会教育の推進、スポーツ・文化の振興などに尽力されました。

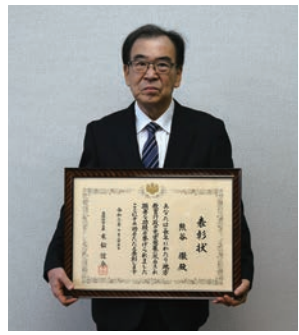
熊谷さんは、平成 22 年から令和 3 年までの 11 年間、教育長を務められ、教育環境の整備、学校教育、社会教育、文化財保護などに尽力されました。

受賞を受けて安部さんは「私一人が受賞したのではなく、仙北市教育委員会がいただいたのだと思っている。私を支えてくださったたくさんの方々にただただ感謝するのみ。今後世のため人のためにできることをしていきたい」と話しました。

また、熊谷さんは「受賞を機に現在行っている外国人の日本語支援などさらに仙北市のために色々なことを頑張っていきたい」と話しました。



安部哲男さん。



熊谷徹さん。

地域の交通安全に貢献

第 48 回秋田県交通指導隊大会

この度、第 48 回秋田県交通指導隊大会において、仙北市交通指導隊員の大平三郎さんと渡辺友康さんが 12 年以上連続優良隊員表彰を受賞しました。

大平さんと渡辺さんは、交通安全パトロールや通学路での街頭指導など交通安全意識の普及、活動に務められたとして今回の受賞に至りました。



受賞した大平三郎さん（左）と渡辺友康さん（右）。

第 35 回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト

松木内中学校が見事「優良賞」を受賞

この度、『第 35 回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト』において、松木内中学校が優良賞を受賞し、12 月 21 日に教育長へ報告に訪れました。

このコンテストは、毎日新聞社が主催で、体力・健康づくりを通して「たくましく生きる力の育成に取り組み、成果を上げていく学校を表彰するものです。4449 校の応募の中から優良賞は全国 29 校、そして秋田県内では同校のみの受賞となりました。

松木内中学校は、1 年を通して全校トレーニング（通称「全トレ」）を毎日約 15 分間、春夏秋冬には主にランニングを継続しています。冬には球技や縄跳びなどを行い体力づくりに励んでいます。特にランニングでは 1 キロ・2 キロのコースを自分の体力によって選択し、その日の体調、脈拍などをきちんと記録して管理。さらには昨年度生徒たちが考案した「松中体操」で 2 分半ほどの準備体操、クールダウンや振り返りもしっかりと行い、ランニング前後のケアにも手を抜きません。



左から須田教育長、保健体育委員会の高橋空夢委員長、草薙宏之先生。

このほかに、ひのきないこども園や清流苑を訪れて体操や縄跳びの姿を見せるなど、地域全体の体力・健康づくりのきっかけにもつなげています。保健体育委員会の高橋空夢委員長（3 年）は受賞について「最初は本当かなと驚いた。代々頑張ってきたことなので、とてもうれしかった」と喜びを語りました。また、「シーズンオフは雪中ダッシュなどの雪国秋田ならではのメニューを取り入れたい。自分たちは卒業してしまいが来年はもっと上を目指してもらいたい」と、これまでの取り組みを引き継ぐ後輩たちへ大きな期待を寄せていました。